婦人を解放した農休日

＊山鹿市馬見塚部落にて＊

★馬目塚はみな働きものということ

馬目塚(まめづか)は、山鹿市の南端にある五十戸たらずの小さな部落である。畑作地帯が多いため、農家は年中忙しい。しかも昔から盛んな養蚕や養鶏があるのでシーズンともなれば二重にも手をとる有様。主婦たちは、農作業の第一線で働くため、炊事から子守、洗濯、家畜の世話にいたるまでの一切は、年寄たちの役目になるといつた具合だ。〃馬目塚んもんな、ようまあ体の続くこつたい〃とそのまめまめしい働きぶりによその部落の人たちは舌を巻いている。だが馬目塚の主婦たちにいわせれば、ブラブラしている暇があるのが土台おかしいというわけ。

★暇なし部落の農休日

しかし、この部落では暇はもつているのである。もう四年も前から、ちやんと月に二回の農休日をつくつて楽しんできている。よく働き、よく楽しむ——これは昔からつたわるこの部落のモットーでもあるらしい。そして、とかく農作業に追われて家庭生活がルーズになり勝ちな農村の暮しを引締め、より生産的なしかも創造性に富んだものを培つてゆくために、農休日がどんなに大切な意味をもつているかを、この部落の人たちはよく知つているようだ。そこで、この馬目塚部落の農休日の姿を、二、三の角度から探つてみることにした。

★何が農休日をつくらせたか

農休日を提案じたのは婦人たちであつた。何事においてもよく精がでるこの部落の婦人たちは、農村の生活改善についても早くからめざめて、地区の普及員の森川さんに研究会の度毎指導にきて貰つている。それも最初は農休日もなく、寸暇を利用して生活改善グループとして集つていたが、いろいろと気がねがあつて、落着いて研究もできない状態にあつた。そこでこの部落の振興会（農事研究部・婦人部・青年部などで構成されている部落全体の研究推進機関）の例会で思い切つて婦人部の要望として提案してみた。ところが、この婦人たちの要求に共鳴して、他の殆んどの人たちも、家庭でのゆつくりした時間が欲しいとか、勉強し合う機会がもつと多くあつていいという意見が圧倒的に多く農休日をつくることはわけなく決つた。

★農休日はどう活かされているか

とにかく農休日は、疲れた躰を休めることが第一の目的だから、毎月、一日と十五日の二日の中、どちらか一日を憩いの日にしている。婦人部では前もつて、みんなからアンケートをとつて月々の計画をたててなるべく、研究会や行事などは農休日にもつていくようにしている。農休日と日曜が重なつても、森川さんは躰をおしまず指導にきてくれている。農村生活の衣・食・住すべてにわたつて新らしい知識を磨こうとする婦人たちの意欲は、回を重ねるに従つて高まるばかりですと、リーダーの福山すえ子さんは語つている。現在、四十一才以下、四十一才以上、年寄といつた三つの分科会にわけて、その年代に応じた講習を定期的に開いている。一方、男の方でも、農休日には農事研究会を開いたり、施設見学や先進地視察などを行つて結構、計画的に充実した日課をつくつている。

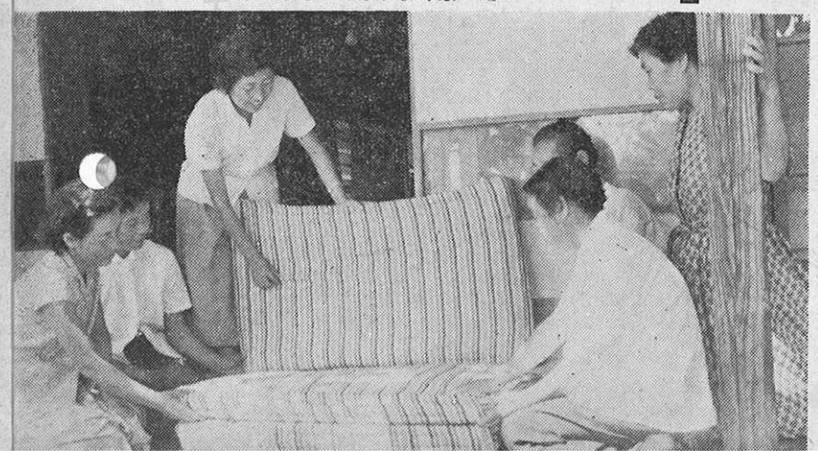
★農休日がなかつた頃と今

農休日ができて、一番に幸福感を味つたのは年寄の人たちだ。それまでは若い主婦たちが研究グループに集ると〃あれは若いもんばつかりの集りたい〃と横目で眺めていたが、それというのも若い人たちに取残される淋しさと、卑屈さからでもあつた。だが、農休日ができてから生活改善グループからは〃お婆ちやんたちもゼヒ料理の講習を一緒に〃と誘いかけられ、今までに味わつたことのない楽しみにひたつている。そして農繁期の共同炊事では卒先して、自慢の栄養食の腕をふるつている。憩いの農休日には、年寄を中心に、みんなで、近くの山鹿温泉までバスで湯治に出かけることもしば〳〵である。〃お蔭でとつても、気が楽になりましたバイ〃という言葉の中に、年寄たちすべての幸福感が云いつくされているようである。農休日のなかつた昔は、つい慾して働くことが多いので殆んど休む暇などなかつた。年寄りもつい遅くまで夜なべ仕事を手伝つて、躰の休まる日は殆んどなかつた。その当時にすれば、それは当然のこととしてすんだのかも知れない。

この頃ではお婆さんたちのスーツ姿も見られるようになつた。レクリエーションに備えて余興の稽古を楽しむ年寄たちの風景など、およそ想像も及ばなかつたことだろう。

（広報課）

わらぶとんの作り方もみんなうまくなつた……■



郷土を花で埋めよう

―花一ぱい運動に協力を―

県の新生活運動協議会では〃明るい家庭・楽しい社会・美しい熊本〃のスローガンのもとにいま花一ぱい運動を展開しています。

この運動は、熊本を「美しい郷土」にするために、家庭でも、村でも町でも花を植えようというねらいなのです。特に明年は国体が熊本の各地で開催されますので、この機会に花一ぱい運動を県下全域にひろめようというわけです。そして県外からの来訪者に、「美しい熊本」としてよい印象をおみやげに持帰つて頂いたらということにもなるのです。

花壇をつくるには、色々な種類の花を慢然と混ぜないで、それ〴〵まとめて植え付け、バランスのとれた花壇に仕立てる事が肝心です。

そのために、一般の家庭ではもちろん官公庁、学校、各種団体にもひろく協力をお願いしていますが、この運動が単なる呼びかけに終るようなことがないように、皆さんの花を愛する美しい心と、実践力で〃住みよい花のある熊本〃をつくろうではありませんか。

そしてこれを機会に、これからも毎年町や村を花で飾つて行く運動を続けて行きたいものです。

朝な夕なに、花を眺められる美しい熊本を一日も早く実現しましよう。

★みんなできれいに

新生活運動のちり箱できる

〃美しい熊本〃をめざして、熊本県新生活運動協議会では、このたび写真のようなモダンなちり箱を熊本市内の公園やバス停留所等に設けました。このほか八代市の城内公園にも設ける予定です。紙屑などはちり箱へ、そして〃美しい熊本〃をつくりましようというわけです。

県下ではじめての■移動図書館

▼表紙写真にもあるように、県立図書館では九月十六日から、広報車「りんどう号」による貸出し文庫をはじめました。

▼貸出しの主な対象は、4Hクラブを中心とした農業研究グループや、僻地の学校図書館、婦人団体などで、一団体にまとめて十冊前後、約二カ月間貸出すことになつています。

▼貸出しは一応県下四十二の農業改良普及所を配本所として、夫々に、各団体の希望によつて八〇冊のセットを「りんどう号」で配本して参ります。せいぜい御利用の程をお願いします。

（県立図書館）